

2024 ANNUAL REPORT

— 2024年度事業報告書 —

2024年4月～2025年3月



2025年5月総会にて



認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸(CS神戸)

2024年度を振り返って

2024度はCS神戸が立ち上がったきっかけである阪神・淡路大震災から30年を迎える節目の年となりました。全国から駆け付けた市民による活動は「ボランティア元年」を生み出し、被災から立ち直ろうとする地元市民は、助けられる側・助ける側を固定化することなく自分にできる役割を担う姿が見られました。地域の一員として自分にできる活動を担う、即ち助け合いの活動をする事は、震災から30年経った今、地域社会の変化等により残念ながら後退していると言わざるを得ません。震災当時の助け合いを取り戻し、誰もが安心して暮らせる地域社会をつくることを目指し、2024年度は特に3つの新たな事業を行いました。

1つ目は、震災30年特別事業です。これまでの蓄積から1000万円の特別予算を組み、常設居場所等への助成や中間支援に携わる人材養成プログラムの開発等、5つのプログラムを実施しました。

2つ目は、区単位での地域活動人材の養成事業です。灘区役所や垂水区役所との協働で、地域の基礎データや課題をまとめた「地域カルテ」を起点とし、新たな地域活動に取り組むグループの創出に取り組みしました。

3つ目は常設居場所における企業連携です。「地域SDGs」を合言葉に、企業からの寄付を居場所の運営資金の一部に充当する「ごちゃまぜカフェ」事業をスタートさせました。

他にも例年通り自主事業、委託事業、助成事業等合計22本の事業に取り組みました。各事業部が連携しながら「地域調査」から「活動グループの創出」に至るフェーズを担い、立ち上げ32団体・新規活動者515名という成果を残すことができました。

これからも「自立と共生を理念とした地域社会をめざし、自ら活動する人々を応援します」を行動指針に、皆様と共に居場所と役割のあるまちづくりを進めてまいりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

2024年度の実績と成果

実績	新規相談者数	890名
	講座数	129本
	受講者数	3,594名
成果	立ち上げ団体数	32団体
	新規活動者数	515名



理事長 中村順子 事務局長 飛田敦子

ミッション

「自立と共生」を理念とした地域社会をめざし、
自ら活動する人々を応援します。

未来をさぐる交流イベント

2024年度
Topics

1

『企業×地域の居場所』で地域SDGsを推進
ごちゃまぜかふえ推進事業

ごちゃまぜかふえパンフ

「ごちゃまぜかふえ」とは、企業の協賛で、灘・東灘地域の常設居場所10カ所で、月1回の設定日には飲み物無料などのサービスを受けられる仕組みです。居場所としては新たな利用者発掘のきっかけづくりになり、協賛企業としては、約1万部のチラシ配布で知名度・親近感が上がり、SDGsの実践例として、社員の意識向上に結び付けられます。

ここに至る経緯として、2024年4～7月の準備期間で地元企業11社に複数回のヒアリングを実施し、8月27日に“企業と居場所の意見交換会「未来を探る交流イベント」”に、居場所11団体、企業8団体、他支援団体含め45名を集め、実現可能な協創事業案の検討を開始しました。12月までにこのイベントで結成された5グループで実証実験し、その結果を2025年2月7日の“「居場所」協創”サミットin神戸にて報告しました。

その結果、企業に金券を購入してもらい居場所で使用する「共通クーポン」の試行の問題点(事務処理工数等)を解決し、3回で延べ120人が参加して好評だったイベント系をミニイベントとして組み合わせる仕組みに至りました。

2025年5月からは10社の企業寄付を得て本格始動しています。今後のさらなる発展にご期待ください。

※協賛企業・個人一覧(2025年4～9月)

(株)神戸介護ケアウィング/神戸化成(株)/コスモスラボ/司法書士・行政書士 橋本法律事務所/特定非営利活動法人じゅら大糧(株)/地域ICT推進協議会/室内克孝/(株)宮内不動産/明治安田六甲中央営業所



※ごちゃまぜかふえ詳細

2024年度
Topics

2

身近な区単位で地域活動を後押し

灘区地域活動人材育成事業 (灘区委託事業)

明舞団地における地域活動人材発掘業務 (垂水区委託事業)

2024年度は灘区および垂水区の2区で地域活動人材の発掘および育成事業を実施しました。灘区では、「なだ実践ゼミ」の企画運営を担い、全10日間のプログラムで20代から80代までの男女30名が参加しました。前半の座学では、昨年度に灘区役所と協働で作成した「地域カルテ」をもとに灘区の現状を共有したのち、高齢者支援や子ども支援を行う団体の事例を学びました。後半のトライアルでは、高齢者、子ども、居場所、防災、企業連携の5つグループに分かれて、グループで単発の活動を企画・実施しました。複数の企業からも社員研修の位置づけで受講いただき、地元企業が主催する地域イベントでの出展や、JRの駅構内のデジタルサイネージによる広報活動につながるなど、企業の地域活動への関心の高さがうかがえました。3月には83名が参加した「なだ大交流会」も実施、最終的には4つのグループが生まれつつあり、今後も継続的なサポートを行う予定となっています。

高齢化が進む明舞団地でも同様に、垂水区役所と協働で「地域カルテ」を作成、地域の“いま”を見つめつつ今後の取り組みを考える座談会を2回実施しました。



なだ実践ゼミ



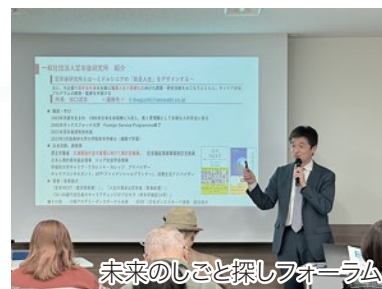
明舞座談会

プロジェクト報告

70歳以上のチームジョブ支援

地域しごとサポートセンター神戸（兵庫県補助事業）

2024年度は、70才以上を対象にした地域しごとに関心をあてて研究会を立ち上げ、定年後研究所池口氏の協力を得ながらアンケートやヒアリング調査を実施しました。アンケート157件の回答から、「短時間」、「社会とのつながり」、「健康維持」などのシニアのしごとに関するニーズが明らかとなりました。調査結果を受けて、地域貢献に積極的な企業との連携を通じたポスティングや、認定こども園の補助業務に携わるシニアチームの立ち上げをサポートし、「未来しごと探しフォーラム」で発表しました。年間を通じて、起業相談数は321件、25団体が新たに起業、就業相談353名のうち就職成立者64名でした。また、神戸市NPO設立運営相談窓口事業は、担当エリアを神戸市全体から東・西ブロックのみの対象エリアとなったにもかかわらず、個別相談309件、NPO法人設立は12団体と前年度並みの結果が出すことができました。



未来のしごと探しフォーラム

70歳以上の仕事に関する意識調査報告

https://www.cskobe.com/uploads/JobSurvey_70s-.pdf



組織の“いま”を自己診断

地域課題に取り組むNPO等に対する運営支援相談窓口（神戸市委託事業）

神戸市「地域課題に取り組むNPO等に対する補助金」の補助団体182団体のうち65団体に対して伴走支援を行いました。特徴は「中間支援コンソーシアム神戸」として、神戸市内で中間支援機能を持つ4団体とチームで伴走支援を行ったことです。多角的な助言が可能になるとともに、補助団体が区レベルの身近な地域で相談者を得ることにつながりました。また、BSCの考え方に基づくオリジナルの「自己診断カルテ」をはじめとしたツールを用いたことで、支援先の団体も支援スタッフも共通の指標で議論することが可能となり、より客観的に団体の運営基盤整備につなげることができました。



グループ相談

NPOと市民の出会いの場

NPO・地域貢献活動フェア（神戸市委託事業）

日々地域の課題解決のために尽力するNPOと、NPOに関心はあるが参加きっかけがない市民のマッチングを目的として開催しました。今年度で3回目となるフェアは、2会場で合計61団体の出展、163名の市民の参加がありました。ほぼ全ての団体が継続的な人材を獲得できたこと、インターン参加者の約半数がインターン先の団体で継続的な活動者になり、69人がマッチングしました。改めて入口のハードルを下げたフェア形式での人材募集が有効であることを改めて実感しました。また、副次的な効果として、市民がNPO活動に触れ理解を深めるきっかけになり、人材の獲得のみならず、ファンや賛同者を増やすことにもつながりました。



NPOフェア

フェア参加・インターン受入れ団体の状況

	東部	西部	合計
①フェア参加団体数	31	30	61
①インターン受け入れ団体数	31	28	59
③インターン後の継続人材獲得団体数	30	28	58
インターン実施率 ②/①	100%	93%	97%
継続人材獲得率 ③/① ※1	97%	93%	95%

フェア・インターン参加者の状況

	東部	西部	合計
①フェア来場者数	85人	78人	163人
①インターン参加者数	94人	55人	149人
③インターン後の活動継続者数	38人	31人	69人
インターン参加率 ②/①	111%	85%	91%
インターン参加者の継続率 ③/② ※2	40%	57%	46%
フォローアップ交流会参加者	2人	4人	6人

※1 受け入れたインターンのうち、期末時点で継続意思のある人を獲得した団体の割合

※2 期末時点において、インターン先の団体で、今後活動者になる意思を持つ人の割合

プロジェクト報告

「アート」と「地域社会」の縁結び

生きがい活動ステーション (公財)神戸市民文化振興財団との協働事業)

生きがい活動ステーションは6月に10周年を迎え、年間訪問者数は7,905名(昨年度比104%)でした。事業テーマは前年度から継続して「文化・アート」を軸とし、灘区にゆかりのある著名人や団体、企業、大学などの協力を得て「生き活1 day 講座」を6つ開催し、いずれも好評を博しました。また、特定のテーマで月1回活動して楽しみながら地域貢献できるグループの立ち上げを目指す「大人の部活」は、「パステルくらぶ」「落語部」「パッチワーク部」「バルーンアート部」「童話創作クラブ」「GPSアートウォーキング部」の6つを開講し、いずれも年度をまたいで活動中です。

2回目の開催となった「アートな夏まつり2024」では352名が参加、メイン六甲4階内の団体をはじめ出店出演の地域の10団体とつながりが深まり、生き活と関係のある11団体からはリーフレットへの協賛広告にご協力をいただくことができました。



パッチワーク部で作成した
小児がん施設のベッドカバー

地域課題解決のためのトライアル拠点

地域共生拠点・あすパーク (自主事業)

5周年を迎えたあすパークは、「協同労働をはじめとする地域課題解決型の団体の創出」と「地域のつながりづくりの拠点」を目標に活動を展開し、年間7800名利用、4団体の立ち上げ支援と25団体が定期利用する拠点となりました。そのひとつ「あすパ・ユース語り部隊」による若者の伝承活動は、多くのメディアから注目を集め近隣地域とのつながりを深化させています。「あすパークライブラリー」の本を通じた関わりや、「あすパークマルシェ」での手作り品の展示・販売も、地域の継続的なつながりづくりとして定着してきました。「むすびえ」や「JICA兵庫」との連携を通じて留学生を「つなぐ・おにぎり食堂」にコーディネートし、食堂を利用する子どもや保護者との交流が進みました。5年の節目に実施した利用者アンケートでは、あすパークの機能の満足度は約9割と一定の評価をいただきましたが、更なるニーズを反映し地域で必要とされる拠点を目指します。



子どもたちに出身国を紹介する
シヨンさん

(写真提供: 認定NPO法人全国こども食堂支援センターむすびえ)

仕事の切り出しやワーカーズ(労働者協同組合)の立ち上げ支援

兵庫型シニアショートワーク事業 (兵庫県雇用開発協会委託事業)

少子高齢化が進行し人生100年時代が一層現実味を帯びる中、シニア世代がそのライフスタイルに合わせて能力を発揮できる環境、中でも最低賃金以上の短時間仕事に対するニーズはますます高まりを見せています。当事業では、シニアが短時間で従事できそうなしごとの「切り出し」を行い、人手不足の清掃・介護等の職種に加え、シニアのニーズが多い事務系の職種から潜在需要のある日本語講師・電話案内業務を重点的に切り出しました。

また、しごとの「創り出し」では労働者協同組合の設立を通じて雇用を創出すべく、「協同労働ミニワーカーズ実践塾2024」を企画開催しました。2024年度は通期10回開催とし、実践重視でより起業に結び付けやすい内容に変更し、10名の参加を得ました。実践塾を通じて、摩耶山の保全や山上施設の管理運営などを担う「摩耶山再生ワーカーズコープ労働者協同組合」が立ち上がりました。3月には「第3回協同労働セミナー」を開催し、協同労働への関心を高めることが出来ました。



摩耶山再生ワーカーズコープ労働者協同組合
代表の慈さん

プロジェクト報告

商業施設で生まれる新しいコミュニティ

まちづくりスポット神戸 (大和リース(株)との協働事業)

まちスポは開設11年目を迎え、商業施設という立地を活かし、来館者が地域活動を始めきっかけを幅広く提供しています。93団体の登録会員らに呼び掛け、10月には「みんなのフェスティバル」を開催し、活動のPRと仲間づくりの場を設けました。消防団と「こども救命救急」、近隣の高塚山でのフィールドワークを含めた「地球と地域をまなぶ」、県立商業高校との課題研究ワークショップ、舞子高校環境防災科や登録会員と「まなぼうさい」など、施設周辺の学校や団体と連携して多彩なイベントを開催しました。

神戸市予約図書受取コーナーは開設6年目となり、取り扱い冊数は伸び続け、「まちスポらぼ」と併せて2024年度は27,601人(前年比110%)にご利用頂きました。「まちスポらぼ」で7月に「絵本古本市」を開催したところ、親子連れなど100名の来場者があり、売り上げを能登半島地震の被災地に寄付することもできました。



まちスポらぼ



みんなのフェスティバル

地域にやさしい見守りステーション

JR住吉駅前自転車駐輪場 (神戸市指定管理事業)

一昨年に導入した定期WEBシステム導入後のアイドルタイムの活用として、スタッフのITスキルアップ研修や地域活動研修を実施しました。利用者ニーズアンケート調査を実施し自主改善提案取り組み項目をリストアップ、地域貢献活動についても積極的に取り組みました。トライアルウィークの中学生との挨拶・声かけ運動、障がい者・店舗・地域団体とともに行った駅前清掃ボランティアなど、参加いただいた有償ボランティアの累計は513名になりました。また市民花壇助成に登録し花壇植栽を進め、駅前連携雑草刈り、SOSネット認知症見守りネットワーク探索協力も継続し駅前の安全と景観の維持を進めています。神戸市ではNPOが1か所の駐輪場から応募できる指定管理者制度の特別の枠組みがありますが、市内で同じくNPOとして駐輪場を管理している団体との情報交換会も続けています。



トライやるウィーク

事業所を応援する評価姿勢

『介護保険地域密着型サービス第三者評価事業』

CS神戸は2012年度から兵庫県の認証を受けて認知症高齢者グループホーム等の第三者評価機関となっています。兵庫県の評価調査者資格を取得している8名の在籍評価員が3人一組で訪問調査と評価結果検討会を行ない、事業所の了解も得て取り纏めた評価結果をネット上(福祉医療機構(WAMNET)のホームページ上)に公開する事業です。CS神戸の第三者評価の特色は、①利用者である市民の視点、②職員を応援し事業所の良い所を伸ばそうという姿勢、③徹底した評価員の合議に基づく独自様式の報告書、の3点で、事業所を応援する姿勢と簡潔で分かりやすい評価結果が好評を得ており、2024年度は32件の第三者評価を実施しました。



調査員メンバー

阪神・淡路大震災30年特別企画

阪神・淡路大震災から30年を迎えるにあたり、CS神戸のミッションである「自立と共生」に基づく地域社会における支え合いや助け合いがより進むことを目指し、これまでの蓄積から総額1,000万円を予算化し5つの特別事業を行いました(一部事業は2025年度に実施予定)。

事業名	実施内容	支出額
① 居場所応援ギフト	常設居場所等34か所に応援金を贈呈	5,847,507
② 中間支援人材研修	ケースメソッドを用いた研修プログラムの開発と実施	2,736,068
③ 若者による災害伝承事業	防災に携わる若者の世界大会(実施は2025年度)	600,000
④ CS事業部企画	5つの事業部で各事業部ビジョンに合わせた企画の実施	350,861
⑤ 神戸新聞との共同企画	11テーマ・65NPOを紙面で紹介(月1回×11回連載)	-
合 計		9,534,436

※2025年度実施予定分も含む

震災30年
特別企画

1

つながり再構築の切り札「居場所」へ応援金をお届け

居場所応援ギフト

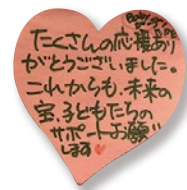
CS神戸がこの10年で注力してきた地域の居場所づくり。地域コミュニティの中で重要な役割を果たす週3日以上開設の「常設居場所」、および裾野拡大として週1回以上開催の居場所34団体に合計580万円の応援金をお渡ししました。震災直後に実施した居場所「茶話やかテント」や「茶話やかサロン」の流れを組むもので、震災当時も、現在も住民のエンパワーメントにつながっています。2月には、贈呈先団体の交流会を開催し、居場所運営者の皆さんへ敬意を表すとともに、居場所間の交流を図ることができました。



交流会



ギフト贈呈団体からの寄せ書き



〇選考委員長 小室邦夫氏からのコメント

交流会では皆さんの晴れやかな表情が印象的でした。使途自由のギフト形式の助成だったこともありますが、自分たちの活動に対する自負心とともに、もっといい活動をしようという意欲や真摯な姿勢を強く感じました。ご活躍を心から期待しています。

ギフト贈呈先団体のコメント① 常設枠(固定した拠点で週3日以上開設)

〇まちライブラリーみなとじま

CS神戸さんからのうれしいギフトで、窓辺にカウンター席ができました！1人でもふらっと座れる席ができて、ゆっくり過ごしてもらえます。ありがとうございます。



ギフト贈呈先団体のコメント② 週1日以上枠(様々な拠点で週1日以上開設)



〇サポートステーション灘・つどいの家

灘区で、福祉センターや集会室、民間の場所をお借りしながら活動しています。この度は素敵なギフトを頂きスタッフ一同大変感謝しています。地域と協働しながら、より一層活動の輪を広げていきたいと思ひます。

阪神・淡路大震災30年特別企画

震災30年
特別企画② ケースメソッドを活用したオリジナル研修プログラム
中間支援人材研修事業

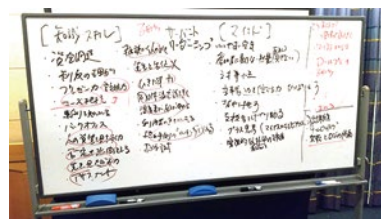
CS神戸では、地域課題の把握を起点とし、講座で初めて出会った受講生たちが目的ごとにグループを組成し、主体的に課題解決の担い手となっていくための伴走支援を行っています。多世代交流の居場所、高齢者の生活支援、こども食堂など、輩出してきた団体数は1000を超えています。

震災30年を機に、これまで培ったグループ創出のプロセス（調査・講座・グループ立ち上げ・評価）をプログラム化して1泊2日の合宿形式で試験実施しました。立ち上げまでによく起こるハプニングを取り上げ、星野副理事長監修のもとケースメソッドを活用したオリジナルテキストを作成、「あなたならこの場面でどう支援する？」を皆で議論しながら最適解を導き出しました。中間支援組織のスタッフを中心に全国から9名が参加し、参加者全員から「大変満足」との評価を得ました。

グループ立ち上げまでの支援フェーズに沿って、ケーススタディ方式で学ぶ研修はまれで、今後さらに内容をブラッシュアップし、CS神戸の独自研修として展開していく予定です。

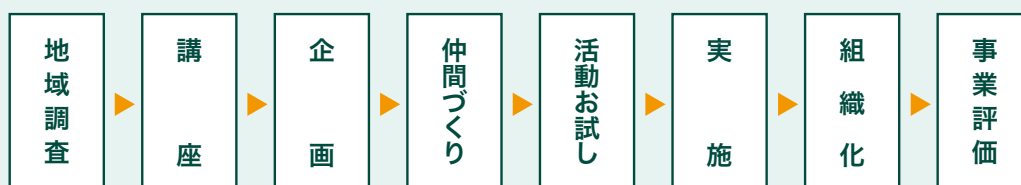


研修の様子



ケーススタディでの議論のあと

CS神戸のグループ創出の流れ

震災30年
特別企画③ あすパ・ユース震災語り部隊が大活躍
若者による災害伝承事業

あすパ・ユース震災語り部隊は阪神・淡路大震災の体験を掘りおこし、若者の感性でとらえなおし、教訓を伝えていく活動です。CS神戸と連携し、月例の活動を基本に2025年8月に実施する「震災30年特別合宿-多様な人と学ぶ神戸の震災文化-」で他地域から若者を迎える準備を進めました。具体的には震災後に生まれた高校生・大学生・専門学校生（登録数約30名）があすパークで土曜日を中心に月1、2回灘区成徳地区の震災当時の状況や学びを語り継ぐ活動を深めることができました。活動は次の3種類です。

①成徳地区の住民をゲストとして招き、震災当時の話を聞く「インプット活動」、②成徳地区や他地域の大人の参加を得て、お茶を飲みながら若者に震災当時の話をしていただく「カフェ企画」、③インプット活動やカフェ企画で聞いた貴重な話をもとに若者たちが語り部をする「まち歩き企画」。若者しかできない敷居の低い伝承活動として、2025年度の合宿では全国からの参加者に対し、若者らしい語り部ができるよう練習に励んでいます。



阪神・淡路大震災30年特別企画

震災30年
特別企画4 各事業部で特徴ある独自プログラムを実施
CS事業部企画

CS神戸では拠点のある事業部が5つありますが、そのうち4拠点(本部・ワラビー／生きがい活動ステーション／地域共生拠点・あすパーク／まちづくりスポット神戸)で、震災30年に相応しいプログラムを立案・実施しました。事業のスタートとして、六甲山上の研修施設MOWAにて役員・正会員の参加を得て研修会を実施、宮垣元慶応大学教授を講師に、2024年に上梓された『NPOとは何か』に沿って、NPOの現状や課題についての共有をしました。午後からは、各事業部に分かれて、企画内容を検討し、最終的に以下の4事業を実施しました。

■本部・ワラビー 「我が家の防災大作戦」

ワラビーが起業支援に携わった団体を講師に招き、各参加者の自宅を中心に防災マップづくりや防災アプリのダウンロードサポートを実施。参加者8名。

■生きがい活動ステーション 「震災30年つなごう音楽で未来へ」

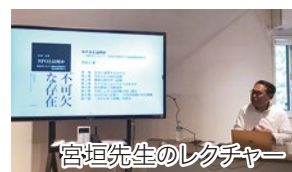
灘区内の4か所でのエリアコンサートののち、地元オペラ歌手の老田裕子氏を招いて灘区文化センターにてスペシャルコンサートを実施。参加者のべ291名。

■地域共生拠点・あすパーク 「カードゲームで学ぶお金と寄付」

あすパークで活動する3つの団体への寄付を目的に、地元企業からの協賛金を得て、カードゲーム「from Me」体験会を実施。参加者20名。

■まちづくりスポット神戸 「みんなでまなぼうさい」

例年の防災イベントのプログラムに加え、大和リース(株)や(株)紅中の協力を得て「避難所体験」のプログラムを実施。参加者958名。



宮垣先生のレクチャー



防災大作戦



生き活コンサート



寄付ゲーム



避難所体験

震災30年
特別企画5 NPO紹介のための月1 特別連載 神戸新聞×CS神戸
震災30年『つなぐ手ひろく輪』

阪神淡路大震災時に、130万人のボランティアが被災地にて活動したことが大きな後押しとなり法制度化されたのがNPO法人です。その意義と現状を広く紙面でお伝えする目的で神戸面にて月1回の連載枠を設けていただきました(11のテーマで市内65団体を紹介)。また中村理事長も同時期に神戸新聞夕刊の「随想」を7回にわたり連載、寄付の申し出があるなど、大きな反響がありました。



神戸新聞連載①居場所



神戸新聞連載⑨男女共同参画

	テーマ	掲載団体数
1	居場所	6
2	障がい者支援	6
3	アート・文化	6
4	子ども・若者	6
5	高齢者	6
6	多文化共生	6
7	まちづくり	6
8	災害・地域安全	6
9	男女共同参画・人権	6
10	環境・農業・食	6
11	中間支援	5
	合 計	65

2024年度決算報告

※詳細版はCS神戸のHPに掲載しています

貸借対照表

資産の部		負債の部	
1.流動資産	51,367,902	1.流動負債	7,358,744
(1)現金・預金	45,042,568		0
(2)その他流動資産	6,325,334	負債合計	7,358,744
2.固定資産	35,149,632	正味財産の部	
(1)有形固定資産	18,829,818	前期繰越正味財産	86,471,115
(2)無形固定資産	275,960	当期正味財産増減 ※1	-7,312,325
(3)投資その他の資産	16,043,854	正味財産合計	79,158,790
資産合計	86,517,534	負債及び正味財産合計	86,517,534

活動計算書

科目	金額	科目	金額
I. 経常収益		II. 経常費用	
1. 受取会費	595,000	1. 事業費	67,903,015
2. 受取寄付金	11,147,578	2. 管理費	13,827,911
3. 受取助成金等	9,018,500	経常費用計	81,730,926
4. 事業収入	53,242,825	当期正味財産増減額 ※1	-7,312,325
5. その他収益	414,698	前期繰越正味財産額	86,471,115
経常収益計	74,418,601	次期繰越正味財産額	79,158,790

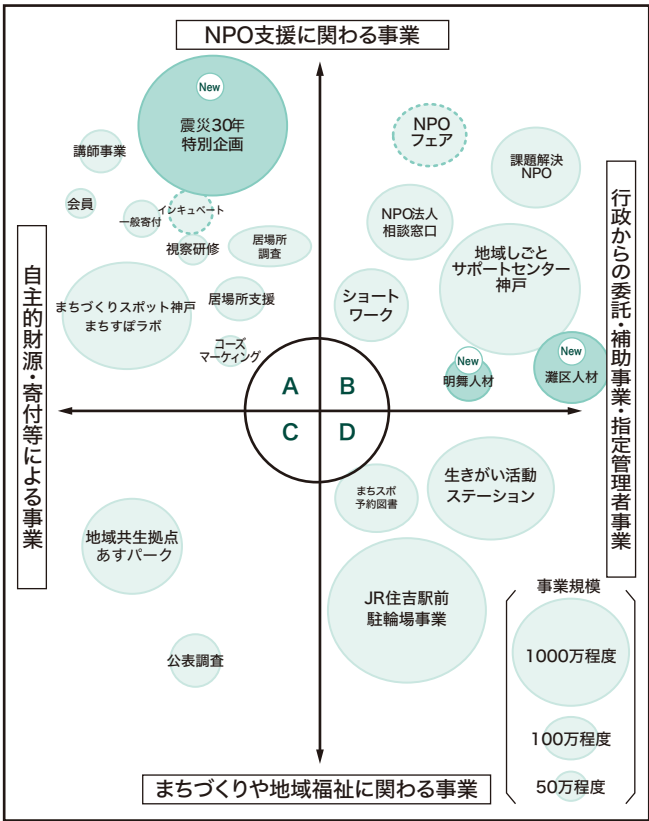
※1 当年度は、これまでの蓄積から総額1000万円の予算を組み、5つの「震災30年特別企画」を実施しました(①居場所支援事業「居場所応援ギフト(助成)」、②中間支援向け人材養成プログラム、③若者による災害伝承事業、④CS神戸各事業企画、⑤神戸新聞での記事連載)。上記の経常費用には、9,103,036円の特別支出が含まれています。

(固定資産の一部と賛助会費の8割を充当している「市民活動サポート基金」は、5団体に合計480,000円の助成金を交付しました。)
[りんごぶらす／ふるふるアート／終活応援隊／たたいのわ／Mothersproject]

2024年度ポートフォリオ

CS神戸における事業構成 2024年度決算

総額：8173万円(うち910万は震災30年企画の支出)



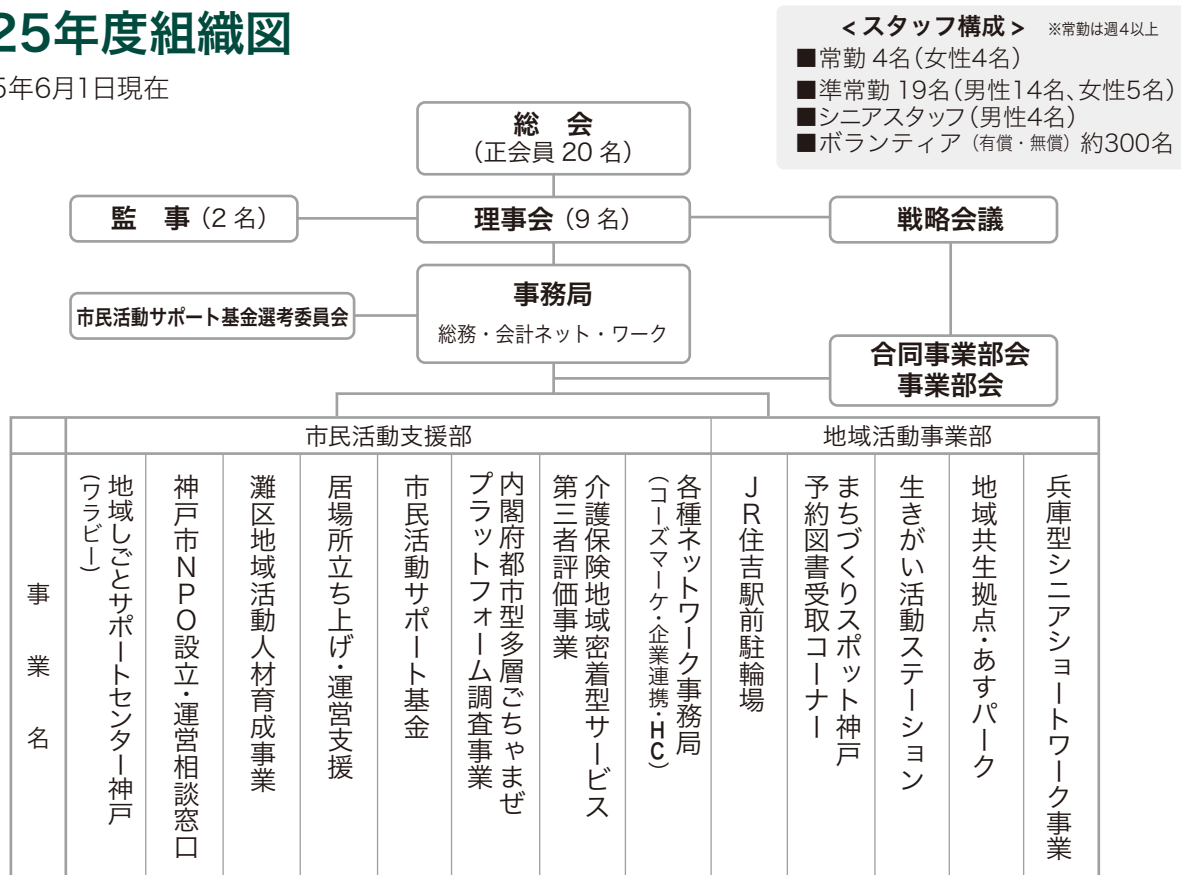
2025年度に向けて

2025年度は「地域SGDs」の旗のもと、これまで蓄積してきた人や事業の様々なつながりを基盤に、次なる展望を描きます。具体例としては企業と地域の居場所の連携をさらに進めるとともに、内閣府の多世代参画プラットフォーム構築の調査事業にも参画し、多様な人々が参加できる地域の仕組みづくりのために精力的に取り組めます。また、それら新規事業や5拠点での既存事業を推進するにあたり、新たな組織体制への移行を視野に入れて、次なる展開の実質的な議論に入ります。

今年度も「自立と共生」の原点を意識しつつ、新たな社会参加する市民の後押しをし、課題解決にあたる団体が多様に生み出されるよう、取り組みをすすめてまいります。

2025年度組織図

※2025年6月1日現在



事業所マップ



役員・会員・寄付者一覧

■役員

理事長	中村 順子	中村学園大学 特任教授／九州大学 名誉教授
副理事長	星野 裕志	学校法人追手門学院 理事
	佐藤 友美子	株式会社ウェルアップ代表取締役
理事	尾花 弘教	ヒューマンスキル研究所 主宰
	小室 邦夫	iC株式会社 代表取締役(新任)
	佐合 純	兵庫県立大学大学院社会科学部 教授
	當間 克雄	コミュニティ・サポートセンター神戸 事務局長
	飛田 敦子	コミュニティ・サポートセンター神戸 事務局次長(新任)
	山村 弘美	元・神戸市職員
監事	井上 隆文	コンサルティングオフィスK 代表
	奥村 一人	

新たに2名の理事が
就任しました！

■会員一覧

(順不同・敬称略) ※2024年4月～2025年3月

正会員(20名) 足立 勝／岡本 仁宏／佐藤 友美子／小室 邦夫／坂本 登／中村 順子／星野 裕志／當間 克雄／川島 龍一／長谷川 京子／飛田 敦子／藤原 和男／井上 隆文／松下 忠義／朴木 佳緒留／池田 拓也／尾花 弘教／奥村 一人／上田 理恵子／佐合 純

賛助会員・個人(85名) 藤本 傑士／與口 修／浜田 宏樹／高橋 貴之／小川 大和／川島 悦子／川島 かおり／内田 満夫／白井 一彦／岡田 雅幸／朝山 日出夫／稲田 薫／子川 幹男／田村 敏行／村上 義弘／菅 祥明／松元 隆平／東郷 寛／大谷 敏行／新庄 達也／林 祐介／新福 たか子／日下 恵子／上田 正也／畑中 進／桑山 信子／植戸 貴子／兵頭 晴喜／津田 久雄／蒲田 尚史／尼川 洋子／川瀬 明彦／池田 康二／直田 春夫／尾山 宗久／松元 庸子／大西 佐知子／西池 陽一／廣井 かほる／小林 清隆／狩野 仁未／井筒 眞弓／梶原 靖子／金川 宏／森 功／増金 祐次／平川 修／松本 吉一／西田 幸夫／藤本 隆／大和 三重／飯島 園子／朝倉 有子／栗野 真造／堂馬 英二／高橋 弘幸／瀬戸口 延恵／守永 浩一／大野 利恵／佐野 正明／前田 優子／大黒 洋一／山内 延浩／長田 幸一郎／四宮 一夫／泉 勇策／一瀬 敏弘／吉本 隆光／氏家 都子／今別府 宏／加藤 正博／上野 恭男／吉川 忠寛／伊谷 須美子／林 律子／原 祥隆／山本 好克／平田 富士男／細見 典子／小林 義徳／落合 弘／長澤 マリ／黄田 昭子／榎本 まな／山村 弘美

賛助会員・団体(14団体) NPO法人じゅら／ヒューマンスキル研究所／宗教法人満福寺／うたごえ広場ひだまり／自由演劇倶楽部えん／NPO法人福祉ネットワーク西須磨だんらん／NPO法人ふれあい福祉会山びこへるぷ／株式会社グリーンテクノス／株式会社神戸サンソ／株式会社まんぼう／株式会社ロック・フィールド “神戸ヘッドオフィス・神戸ファクトリー”／東灘こどもカフェ／NPO法人薫風／NPO法人ホザナ・ハウス

ご支援
ありがとう
ございました！

■寄付者一覧 (順不同・敬称略)

企業・団体(9団体) 大和リース株式会社／有限会社 神輝興産／株式会社シカタ／商船港運株式会社／株式会社さんふらわあマリンサービス／明治安田生命保険相互会社／住吉台テラスハウス／株式会社神戸マツダ／すずカフェ倶楽部

個人(21名) 尾花 弘教／姫野 操子／藤井 芳典／小林 清隆／飛田 雄一／栗野 真造／松下 忠義／瀬戸口 延恵／野上 将光／守永 浩一／池田 拓也／松田 ヒロ子／山本 好克／林 光彦／中村 順子／飛田 敦子／小室 邦夫／山村 弘美／吉川 忠寛／長澤 マリ／西池 陽一

賛助会員へのご加入・ご寄附について

税額控除がある認定NPO法人を更新するためには年間100名以上の会員・寄付者が必要です。ぜひお力添え下さい。賛助会員費(個人会員様3,000円/年、団体会員様 10,000円/年)、またご寄附は下記の方法にて納入いただけます。

① **オンライン決済** 右のQRコード、もしくはCS神戸HP(トップページ上部)のオレンジ色のボタンよりお手続きいただけます。

【賛助会員費支払い用】



【寄付金支払い用】



② **郵便振替** 郵便振替口座番号: 00950-2-144205
加入者名: 特定非営利活動法人コミュニティ・サポートセンター神戸

③ **銀行振込** 銀行名: 三井住友銀行
支店名: 住吉支店
口座種別: 普通
口座番号: 3653476
口座名義: 特定非営利活動法人コミュニティ・サポートセンター神戸



認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸(CS神戸)

〒658-0052 神戸市東灘区住吉東町5-2-2 ビュータワー住吉館104

TEL.078-841-0310 FAX.078-841-0312

E-mail: office@cskobe.com URL: https://www.cskobe.com

